

- **CRL、技術開発成果で独立行政法人化後初めての海外ビジネス
～ドイツ地図測地局へ、VLBI観測装置を有償譲渡～**
 - 平成13年10月25日
-

独立行政法人通信総合研究所(以下CRL、理事長:飯田尚志)は、同所が開発したVLBI観測装置の一部を、ドイツ地図測地局からの購入要求に応え有償譲渡することを決定しました。これは、本年4月に独立行政法人化したCRLにとって初めての有償譲渡であり、今後、同所の優れた研究成果が海外ビジネスを通じて国際的に活用されることが期待されます。

<背景>

CRLは、これまで海外の研究機関と共同でさまざまな国際実験に取り組んできました。この国際実験に利用された装置には、CRLの技術開発成果がいかされています。これらの装置は、現地へ輸送して海外の研究機関とともに運用した際、計測精度の高さや操作の容易性といった性能が評価され長期間の実験が予定される場合に、海外の機関から装置売却の可能性を打診されるケースがありました。しかし、国有財産の管理上所定の手続きを経る必要があり、必ずしも実施には至りませんでした。

一方、本年4月の独立行政法人化に伴い、法人の運営にあたっては、効率的な経営努力を行うインセンティブを高めるために、利益が出た場合には一定の範囲内で、法人がその業務の遂行のために自ら使用できるようになりました。

<CRL開発装置の有償譲渡>

国際協力が必須なVLBI実験では、国際的にIVS(国際VLBI事業)の技術開発センターとして認められたCRLの開発技術が注目されていました。CRLと研究協力のあったドイツ地図測地局のウェッツェル観測所からは、独立行政法人化以前から、CRLが開発したVLBIシステム(K-4型VLBI装置)の売却の可能性が打診されていました。CRLは、今年4月に独立行政法人化したことから、そのメリットを活かし、両者の合意により、CRLがこのVLBIシステムの一部を有償で譲渡することとなりました。

<今後の発展>

CRLは、効率的な経営努力により業務を遂行していくにあたり、今後、CRLの開発技術が国内外の機関に有償譲渡され広く活用される可能性が広がりました。また、今回のVLBI装置がドイツの観測所の所有となることから、日独を中心としたVLBI観測協力による国際精密位置観測、地球回転観測等の発展が期待されます。

<用語解説>

VLBI: 超長基線電波干渉計(Very Long Baseline Interferometer)。クエーサーなど電波星からの電波を2地点で観測して、観測局の精密位置決定等に用いられる。

IVS: 国際VLBI事業(International VLBI Service)。国際的なVLBIの協力組織。

(問合せ先)

独立行政法人通信総合研究所 精密測位技術グループ 吉野泰造
(Tel:042-327-7560、Fax:042-327-6077、携帯:090-4675-4838)



図1:通信総研の開発したK4型VLBI観測装置



図2:ドイツ地図測地局ウェッツェル観測所写真(同所説明書より引用)